

事業番号	15 02 02	事業改善シート（令和2年度実施事業分）	当初要求	□当初予算案	□補正予算案	■点検
事業名	信州少人数教育推進事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	義務教育課	
		実施期間	H14～	E-mail	gimukyo@pref.nagano.lg.jp	
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)						
8つの重点目標						
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進					

1 事業の概要

事業の現状・目指す姿(予算編成時)	【現 状】
	【目指す姿】
	【実施内容】

指標の状況及び目標値 [↗:改善、↘:悪化、→:変化なし]						区分(単位:千円)				
No	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	目標値	達成状況	事業コスト	前年度繰越	R1年度	R2年度
1	県内の小6児童の内、学力の全国上位(下位)1/4に含まれる者の割合(算数)	上位:22.7% 下位:25.3%	上位:23.3% 下位:25.8%	↗ ↘	全国学力調査未実施	上位:25.0% 下位:25.0%		—	4,095,300	3,993,300
2	県内の中3生徒の内、学力の全国上位(下位)1/4に含まれる者の割合(数学)	上位:23.1% 下位:25.7%	上位:25.0% 下位:25.7%	↗ →	全国学力調査未実施	上位:25.5% 下位:25.0%		—	4,095,300	3,993,300
3	県内の小6児童、中3生徒の内、算数・数学の授業の内容がよく分かるという質問肢の割合	小:83.4% 中:71.0%	小:83.5% 中:73.9%	↗ ↗	全国学力調査未実施	小:84.0% 中:74.5%		—	2,772,700	2,703,000
4									4,095,300	3,993,300
								決算額(B)	4,095,300	3,993,300
								職員数(人)	2	2

成果指標設定理由	【成果指標1～3】第3次長野県教育振興基本計画の中でも成果指標として掲げられており、児童・生徒の「基礎学力の確実な定着」の状況によって、個に応じたきめ細かな指導・支援による効果を検証できるため。
----------	---

達成状況の分析	【成果指標1・2】R2年度は、コロナ禍において全国学力学習状況調査が実施されなかった。R1年度は、学力調査の全国上位・下位層における県内児童・生徒の割合が、上位・下位ともに目標値を下回ったものの、H30年度と比べて上位層の割合が増加し、一定の成果があったといえる。下位層の割合は小学生で増加し、中学生は現状維持となっていることから、さらにきめ細かな指導をすることで、知識を活用する力を習得させる必要があると認識している。 【成果指標3】R2年度は、コロナ禍において全国学力学習状況調査が実施されなかった。R1年度は、質問肢における「学習習慣」に係る数値は小中ともに昨年度よりも向上しており、かつ全国の平均値と同等もしくは上回っている。個に応じた授業及び家庭学習への対応の成果と認識している。 ※実施校を対象にアンケートを実施。事業区分(小中30人規模学級編成、小人数学習集団編成、学習習慣形成、不登校児童生徒支援)ごと、①学力向上 ②学習習慣 ③生活習慣について集計。「十分達成された」「達成された」「ほぼ達成された」の割合がすべての項目で98%以上を占めた。実施校において、少人数学習の効果の実感が見られた。
---------	---

主な取組	✓ 信州少人数教育推進事業の実施 ・小中及び義務教育学校における30人規模学級編成など、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行うことにより、学習指導・生活習慣の確立と基礎学力の定着を図る。		
	事業区分	対象学年	内容
	学習習慣形成支援	小1、小2	複数教員による支援・指導(TT)
	30人規模学級編成	小2～小6	30人規模(35人基準)学級編成
	30人規模学級編成 または 少人数学習集団形成	中1～3	30人規模(35人基準)学級編成と少人数学習集団編成との選択制
少人数学習集団編成	小3～小6 中1～中3	習熟の程度に差が生じやすい教科で30人以下の学習集団を編成(小:算数、中:数学、英語)	
不登校児童生徒支援	中1～3	不登校・不適応児童生徒の適応指導・支援	

【A小学校(30人規模学級編成)】
 目標⇒成果:「NRTで国・算が全国平均以上」テスト平均点 国88点、算86点
 :「授業がよくわかる」目標90%以上⇒94%
 :「みんなは意見をよく聞いてくれる」目標90%以上⇒92%
 :「自分から質問できる」目標82%以上⇒97%
 エピソード:少人数のよさを生かして子ども同士で話し合っ授業を進めているので、普段から安心して話し合いをしている。

【B小学校(30人規模学級編成)】
 目標⇒成果:「全国平均を下回る数・社・理でNRT50点以上」
 数学49.6⇒50.6 社会48.4⇒50.4 理科49.2⇒49.6
 :「30日以上欠席生徒を10名以下にする」R元14名⇒R210名
 エピソード:提出されたノートを丁寧に読んでコメントを書くことができ、生徒のやる気につながった。

※NRT:相対評価による標準学力検査
市町村・学校等で任意に取り組む。

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	課題等	今後の方向性
	学級規模が大きくなるにつれ、徐々に平均正答率が下がる傾向が見られる。	少人数学習の効果を様々な観点から検証するとともに、成果のあった取り組みについて蓄積し、共有していく。

事業番号 15 02 02 細事業一覧（令和2年度実施事業分） 当初要求 当初予算案 補正予算案 点検

事業名	信州少人数教育推進事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	義務教育課
-----	--------------	----	----------	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R 1 年度 決 算	R 2 年度 決 算
1	信州少人数教育推進事業費	4,095,300 千円	3,993,300 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和2年度 実施内容(実績)
1	信州少人数教育推進事業	直接	小・中学校30人規模学級、少人数学習集団編成、低学年学習習慣形成、不登校児童生徒支援のための教員の配置をし、その効果検証を行った（全国学調が行われなかったため、実施校へのアンケートのみ）。